

「ナッジ理論を用いた掲示物の作成とその効果の検証」

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 養護教育実践系

上野 真奈

本研究は、養護教諭の啓発活動として掲示物に着目し、ナッジ理論を取り入れた参加型の掲示物を作成して掲示することで、知識の定着のみならず行動変容に移すことが出来るのかを検証した。対象は愛知県内の小学4年生であり、評価として介入前後に質問紙調査とインタビュー調査を行った。なお掲示物の内容は子供の実態踏まえて正しい姿勢を取り上げた。

その結果、質問紙調査では、ナッジ理論を取り入れた掲示物の作成により、掲示物に興味を持ち、内容を理解する児童が増えたことが示された。また姿勢の調査からも、実際に児童に正しい知識が付き、ある程度の児童に行動変容がみられたことが分かった。また、インタビュー調査では、参加型や実験型の掲示物や、アニメーションやクイズなどを取り入れることで、児童の興味や関心を高められることが分かった。これらのことから、小学生においてナッジ理論を取り入れた掲示物の作成は、知識の定着のみならずある程度の行動変容に移すことに効果が見られた。